甚小だより

明日咲くつぼみ

あま市立甚目寺小学校
平成 30 年度　第 2 号
平成30年　5月16日

“明日咲くつぼみ”とは・・・

今年も甚小だより“明日咲くつぼみ”をお届けします。

“明日咲くつぼみ”とは、明日への希望や意欲という意味を込めています。

毎日の生活は、楽しいことばかりではありません。ときには歯を食いしばってがんばらなければならないこともあります。失敗して気持ちが落ち込んでしまうこともあるでしょう。そんなときに、わずかでも希望や意欲につながる言葉や状況があれば、人はきっと立ち上がり、見失っていた目標に向けた歩みを再開することができるはずです。

“明日咲くつぼみ”という言葉には、明日への期待感とともに、どんなに苦しいときにも「やがて花を咲かせる芽やつぼみ」をだれもが持っているという意味があります。そして、そのつぼみを摘み取られるようなことがあってはならないのです。

いろいろなところに“明日咲くつぼみ”はあるはずです。“明日咲くつぼみ”を子どもたちに気づかせ、持たせたいものです。

１日の始まりは「おはようございます」から

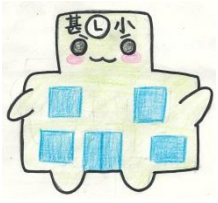
入学式に「“おはようございます”というあいさつを大切にしてほしい。１日は、このあいさつから始まります」という話をしました（前号に掲載）。このことは、１年生のみなさんに限らず、全校児童、全職員、ひいては世の中のすべての人にあてはまることでもあります。

5 月 10 日には、本年度第１回目のあいさつ運動が行われました。児童会生活委員、ＰＴＡ委員の皆さんが東西の校門に立ち、登校する子どもたちを、元気一杯の「おはようございます」と笑顔で迎え入れました。声を掛けられた子どもたちは自然に「おはようございます」と返しています。

こうしたことの繰り返しが、あいさつの習慣になっていくのです。さらに一つのあいさつができれば、他のあいさつもできるようになっていきます。

先日、こんな場面がありました。筆者が出張に出かけようと職員通用口を出た際に、授業が始まる前の 3 階の教室から「先生、出張ですか？いってらっしゃい！」という声が聞こえてきました。振り向くと、そこには笑顔で見送ってくれる子どもの姿がありました。とてもうれしい気分で出張に出かけることができたのは言うまでもないことです。

学校では、あいさつをする場面が多くあります。学校が「社会を学ぶ場」と言われる理由の１つです。持続可能な社会づくりの基盤は人づくりであり、その基礎の１つがあいさつであることを確認しながら、元気よくあいさつできる学校をみんなでめざしていきたいと思います。

○連絡

・あま市「健康マイレージ」の取組に、本年度も学校として参加します。
・甚目寺小学校は、これまで取り組んできた「ＥＳＤの視点を取り入れた教育活動」について、本年 11 月 21 日に研究発表を行う予定です。